助成・寄付寄贈報告

◆ おもちゃ、本など（ みつばちの利用者様より）

厚く御礼を申し上げます

研修会・講演会のご案内

◆ 定期研修会「Be サポ事例研究会」

今年度から「子どものそだち研修会」「東部アセスメント研究会」の 2 つの研修会が「Be サポ事例研究会」として統合されました。参加登録手続きの窓口がひとつになります。研修内容は、原則、奇数月に成人事例のアセスメントを中心としたもの、偶数月に子どもの事例検討を行います。参加者の皆様とさまざまな意見を出し合いながら、その人らしさを理解し、今後の支援の在り方や方向性を一緒に考えていきたいと思います。

日時：原則、毎月第 3 水曜日 18：30～21：00　　場所：プラサヴェルデ沼津
参加費：Be サポ会員無料、非会員 1,000 円／1 回
参加資格：心理士、スクールカウンセラー、支援員、教員など、守秘義務を課せられた専門職の方が参加できます。
初めて参加される方は Be サポートまでご連絡ください。
今後の予定：9/18（成人事例）、10/16（子ども事例）、11/20、12/18、1/15、2/19、3/18
※この研修会は、臨床心理士資格認定協会の資格更新ポイント（定例型）の申請を予定しています。

Be サポート業務一覧

相談・カウンセリング事業
カウンセリング、プレイセラピー、各種心理検査

医療・保健・福祉・教育等 地域機関への協力
静岡県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業
沼津「なごみ」　伊豆市「とっこ」
伊豆市・伊豆の国市・清水町 母子保健事業
（乳幼児健診・発達相談・療育教室）
函南町・清水町・伊豆市教育委員会
（就学支援・特別支援教育・巡回相談）
伊東市・富士市 市民メンタルヘルス相談
県および市町主催ゲートキーパー養成事業
県立高校スクールカウンセラー・学校支援心理アドバイザー
NPO 法人静岡犯罪被害者支援センター
社会的養護関係施設第三者評価事業

被災者支援事業
東日本大震災被災者支援活動「OHANA」

企業・事業所への支援事業
メンタルヘルスカウンセリング
企業研修会への講師派遣

研修・啓発事業
専門職対象の定期研修会開催
一般市民対象の講演会開催

児童発達支援事業
障害児・者総合サポートセンターみつばち
（児童発達支援「あんず」
放課後等デイサービス「かりん」
保育所等訪問支援）

相談支援事業
指定計画相談支援・指定障害児相談支援

Be サポート　会員募集

NPO 法人とは利益を目的とせず、社会や地域のニーズを追求し応える活動を行う団体です。臨床心理士を中心とした有志で Be サポートを設立しました。専門的な視点から地域のさまざまなこころの問題に取り組んでいます。現在、正会員 49 名、賛助会員 4 名（2019.8 時点）で活動しております。

私たちの活動を応援してくださる会員さんを募集しております。会員の方へは会報誌の送付、研修会や講演会での参加費が優待されます。また地域で働く援助職の方には、ネットワークづくりとしても活用していただいております。会員登録を希望される方は Be サポート事務所までご連絡ください。

特定非営利活動法人 臨床心理オフィス Be サポート

クローバー通信

2019 年 9 月 10 日発行 Vol.21

NPO 法人 臨床心理オフィス Beサポート
〒4100056 沼津市高島町 29-11 盟萌ビル 201
Tel/Fax 055-925-1701
Mail be-sapo@mail.wbs.ne.jp
HP http://be2011.jimdo.com/
発行責任者　皆川行寛

甘えと間主観性研究会 伊豆大会　　平出小児科 医師　藤山　恵 先生

お陰様で、第 11 回 甘えと間主観性研究会伊豆大会は、去る 7 月 28 日、伊豆市と Be サポート様の全面的なご協力を頂き、成功裏に終えることが出来ました。参加者が当初の予想を大幅に上回り（250 名以上）配付資料が不足するなど、嬉しい誤算もありましたが、この領域に対する地域の専門職の関心の高さを改めて実感しました。

今回は「親子を支える子育て支援～甘えの役割～」というテーマで、子どもだけでなく、親子の関係性がうまくいっていない家庭の「保護者への関わり方」にも焦点をあて、様々な角度から先生方にご講演を頂きました。

① 小児科医/研究会会長：澤田敬先生　　乳幼児精神保健の基本概念について。間主観性と甘え、そして甘えなおし療法とは
② 小児神経科医：横山浩之先生　　愛着障害を疑われる親子に現場でどう関わるか、具体的な方法論をまじえて
③ 児童精神科医：牧真吉先生　　人が「育つ」とはどういうことか、私達に出来る「親を育てる」関わりについて

また、短期間の母子分離を詳細に記録した映像（ロバートソンフィルム）を視聴して感想をシェアすることで、乳幼児に対する母子分離の影響の大きさについて改めて学びを深めました。

閉会後、「地元で（研究会を）開いてくれて本当に有り難う」という嬉しい言葉を多く耳にしました。これは終わりではなく学びの始まりかな、と感じています。微力ですが、地域に発信できるような私自身の学びを今後も地道に続け、いろいろな方のお力をお借りしながら、現場の専門職と共に学び会える機会を時々作れたらいいなぁ･･･と秘かに考えております（実は主催者が一番勉強になり得をする！ということも今回よく分かりましたので）。

何から何までご指導ご協力を頂いた皆川先生、三須先生はじめ Be サポートのスタッフの皆様、そして、広報活動にご尽力頂いた会員の皆様、本当に有り難うございました。

「公認心理師分野別テキスト」　執筆しました

当団体の顧問・江口昌克先生（静岡大学学術院教授、日本臨床心理士会常務理事）より、「公認心理師分野別テキスト（全５巻・創元社発行）」の一項の執筆を依頼され、この春刊行されました。このテキストは、臨床心理学の第一人者野島一彦先生の監修によるもので、心理においての初の国家資格「公認心理師」に必要な知識やアセスメントの仕方などを、幅広く網羅しています。

公認心理師の法的義務の一つとして、「保健医療、福祉、教育等が密接な連携の下で総合的かつ適切に提供されるよう、これらを提供する者その他の関係者等との連携を保たなければならない」と定められていますが、これは、Be サポートが最も大切にしてきた柱のひとつです。執筆にあたっては、普段の業務で自分たちが大切にしている見立てのポイント、幅広く予見的な視点、連携の取り方などを、スタッフで振り返りながら書き進めました。自分たちにとっても、日常の臨床や業務を振り返るよい機会となりました。我々の経験が、公認心理師を目指す方々のお役に立てれば幸いと思っております。

活　動　報　告

障害児・者総合サポートセンター「みつばち」

今年も８月21・23日に、毎年恒例の「みつばち夏祭り」が開催されました。

まず子どもたちは、焼きそばやおにぎりなどを食べて腹ごしらえ。焼き鳥を何本もおかわりする子もおり、その小さな体のどこに収まっているのか不思議なくらい、たくさん食べます。普段あまり食べられない子も、お祭りの日はぺろりと食べられちゃいます。ある「かりん（小学生クラス）」の子が、「あんず（就学前クラス）」の子たちに順番を譲ってあげ、それを見た周囲の子たちも真似して譲ってあげるという場面も見られ、子どもたちの成長を感じることができました。

射的やたこつりなどのゲームは、午前にあんず、午後にかりんとわかれて行いました。みんな景品をゲットするため、真剣に取り組みます。それぞれのゲームで最高得点を出した子には表彰もありました。

そして、昨年に引き続きおばけやしきも開かれました。小物作りは、子どもたちも手伝ってくれており、普段の折り紙や粘土遊びの成果を出してくれています。おばけやしき内では、突然おばけが追いかけてきたり、カーンと音が鳴ったりと、心霊スポット盛り沢山です。みつばちには、このような思いがけない出来事が起こることが苦手な子どもたちが多いです。しかし当日は、スタッフの励ましやお祭りの雰囲気も手伝ってか、ほとんどの子がおばけやしきを乗りこえることができました。乗りこえたという経験が、実生活での自信に繋がっていけばと思います。

子どもたちの笑顔とちょっぴり成長した姿を見られた２日間でした！

東日本大震災被災者支援事業 OHANA　『夏休みの学習支援』

今年の夏休みも OHANA の学習支援を行いました。OHANA に継続して通ってきている子どもたちが、今年は高校受験です。子どもたちは夏休みの間に、OHANA の学習支援に通いながら、静岡県統一模試を受けたり、高校の体験入学に行ったりしていました。心強いことに、元塾講師をされていた方が OHANA へ教えに来てくださり、実際に勉強を教えてもらうことはもちろん、テキストや勉強のやり方など、様々なアドバイスをしていただきました。

今後も、土曜日に学習支援は継続します。子どもたちも受験生という自覚を持って、自ら意欲的に学習に取り組んでいってほしいと思います。

活　動　報　告

県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業「なごみ」

基本的に「居場所」は当事者が安心して過ごせる場であり、当事者本人がやりたいことを中心に活動を行うところです。ただ、自分からやりたいことが言えなかったり、やりたいことがない場合の方が多いです。そのため、「なごみ」では、季節感を感じられるように季節の行事を行ったり、月１回は調理をして昼食を一緒に食べられるようプログラムを用意しています。また、スタッフを含むメンバーの誕生会を開いて、参加者同士が交流も図っています。

昨年度は利用者が増えず、一人だけの参加や参加者がいない日も多かったのですが、今年度は４月当初から見学者も増えてきて、少しずつ「なごみ」が周知されてきたように思います。なぜか見学者も含めてすべて男性ばかりですが、見学者もすぐに打ち解けてＵＮＯなどのカードゲームやボードゲームをやったり、好きなネットゲームの話をするなど和気あいあいとした雰囲気でした。また、年齢層は20代～30代の方々で、ほとんどの方が就労を目標にしています。目下自分に合った仕事が何かを模索している最中の方が多いです。年齢が近い事もあってか、ひきこもっている間の体験や悩みをお互いに話せるような雰囲気になってきているようです。

伊豆圏域の不登校ひきこもりサポート「とっこ」

今年度「とっこ」は、静岡県ひきこもり支援センター居場所設置運営事業の委託を受け運営を継続しています。伊豆市生きいきプラザ工作実習室、利用者さんが刺繍で仕上げてくれたウェルカムボードが「とっこ」の目印です。

活動は利用者さんの希望やペースを優先しています。持参したワークやトークから話題が広がり、驚きや笑いを共有することもあります。温かい空気を感じる瞬間です。またスタッフの提案で、ペーパークラフトやモビール作りに取り組んだり、ボードゲーム、カードゲームなどをして過ごします。競い合うゲームでの駆け引き、新しいゲームのルールを他の利用者さんにアドバイスする姿、協力してゴールを目指す様子など、讃えたり悔しがったり、ゲームの様子を見つめたり。戸惑いや自信が持てない場面ではお手伝いが出来ます。新たな自分の様子に気付いてもらえたらと願います。

そのほか栄養指導室の調理台で手打ちうどん、ピザ、お好み焼きを作りました。几帳面な手さばきや手順に関心しながら、同じレシピで作っても違う形や味付けになる楽しさを味わっています。また、１階のホールでは体を動かしたり楽器を奏でたりもできます。７月には「東京ラスク伊豆ファクトリー」に出かけました。ラスク作りを見学、体験したり、建物２階の卓球場で汗を流しました。

季節の変化を狩野川に感じながら、利用者さんにとって「とっこ」が日常と違う時間を過ごしたり、次の目標に向かう足掛かりの場所になれるよう、ご家庭や関係機関と連携を取りながら、地域に根ざす運営を続けていきたいと考えています。